

第 81 号
平成 27 年
8 月号
HP に 創刊号から
連載中

もう一つの道

情報は、うのみにせず、注意
深く徐々に試してください。

山田整骨院
熊本市中央区出水 4-25-1
096-364-7611

<http://yamadasu.com/>

熊本交通事故, 山田整骨院

<http://www/jiko-kumamoto.net/>

長命の生理

西 勝造

昭和 32 年 5 月刊行

わたくしの念願

わたくしは本年満七十三歳になったが、世間並みの老人とは異なり、心身共になお幾春秋に富んでいる。だが、わたくしの少年時代は悲惨なものであった。下痢と発熱にさいなまれて痩せ細り神経質な少年となり、十六歳の時には、当時名医のほまれの高かった佐々木政吉医博に、死の宣告を言い渡されたものである。しかし病弱ながらもわたくしの少年らしい負けじ魂は、天から稟けた貴い生命が洋行帰りとはいうものの、一介の西洋医に左右されてたまるものか、特に祖父に手ほどきされた論語の「死生有命」（死生命あり）の言葉に痛く感激していた頃であり、自分の稟けた生命は自分で生かしてみせるという気構えに燃え立ったのである。

それから数年間というものは、言葉通り真剣な求道生活に明け暮れたものである。そして二十歳頃には普通の青年らしい健康体をつくり上げることができた。

さて自分の病弱体を克服して健康体になってみると、周囲の病人が気になって来た。それまではひたむきに痩せ衰えた自分自身の体のことばかり考えていたのであったが、いざ健康体になってみると、近隣の病吟が気になり出した。そこで自分の求道時代の体験を物語って、彼等を救治し健康体に導いてやろうと発心するようになった。

ところが、自分の実行した求道生活をつらつら反省してみると、それはわたくしの体質に適合した生活法であって、従ってそれがわたくしだけの病弱体を克服して健康体につくりあげたのではないだろうか、という自己批判が湧いて来た。それにまた病弱体といっても、わたくしの悩んだ下痢と発熱以外に幾百幾千という症状があって、それが多くの人々の健康を害ねているのである。こう考えてみると、わたくしの実行した求道生活法がはたして凡ての病弱者に適用して、彼等を回復に導き得るだろうかという反省と批判を重ねざるを得なかった。そして遂に、すべての病弱者に適用して、しかも彼らの凡てが健康体を成就し得る方法、いや、万人が実行して万人が病気にかからぬ健康生活法の創案に、工夫をこらすことになった。そして二十四歳の時、今日のいわゆる西式健康法の骨組みを作り上げ、また三十四歳の時、これを系統的に組織立てて完成したのである。

公表するまで

わたくしは三十年来、大胆にも「医学の革命」を唱え、「医は医なきなり」と叫んで来たが、この心境に到達したのは三十九歳のときである。当時の東京市長後藤新平氏に呼ばれて市の技師となり、市の高速度鉄道（今日浅草から渋谷に通じている地下鉄その他五線）の設計企画の任を負わされた年である。

前述のように、わたくしは自分が健康体になった以上、なんとかして病苦に呻吟している隣人達をわたくし同様に健康体に導いてやりたい、一般庶民の経済的貧窮の最大の原因となっている疾病を、一日も早くこの世の中から無くしたいという念願と抱負を持ち、またその念願に燃えながらも、論語の「われ日にしばしばわが身をかへりみる」（吾日三省吾身）と「習はざるを伝へしか」（伝不習乎）の一節に自戒自警させられるのであった。それやこれやでいろいろ思い煩った結果、やむにやまれぬ念願を、当時の日本人の平均寿命である四十四歳に達するまでは、公表せぬことに決心した。

待ちに待った昭和二年がやって来た。わたくしの四十四歳の記念すべき年である。しかしわたくしは東京市技師という公務についていたので、自由に振舞うことはできなかった。それでも二月十一日即ち紀元節をトして、以前から最も熱心に懇望されていた東京機械金物商組合において、第一声をあげたのである。次いで十月十七日には出身学校工学院（今の工学院大学）の同窓会東京工業会において、日頃の抱負を大胆率直に講演し、特にこの講演の速記は翌昭和三年二月十一日に印刷にふして公表したものである。昭和三年は西暦一九二八年に当り、奇しくもこの年は、循環系統の三大学者即ちハーヴェーの三百五十年祭、マルピギーの三百年祭、そしてジョン・ハンターの二百年祭の行われた年でもあった。

解 説

本稿は西勝造先生が西式健康法を発表された経緯を説明されたものです。西式健康法の特徴は1. ご自分の病気を治した方法である。2. そのために古今東西の医学を研究された。3. 数学、物理学、化学を基に宗教、哲学の心理面が考慮された方法である。4. 血液循環の原動力は物理学的に心臓ではあり得ないと断じた。5. カロリー学説は熱力学第一法則であり、熱力学第二法則による食事療法を採用した。6. 戦前に発表されたので戦争中の負傷、戦時下での食糧問題、健康維持に真価を發揮した。7. 渡辺正医博、濟々鬘、東大出身の高田隣徳医師、甲田光雄医博その他多くの医師が西医学で治療を行い、現代医学で見捨てられた多数の難病の患者を救った。等々。

現代医学はご承知のように万全ではありません。現代医学で出来ないものを、西医学で治療できるものが多数あります。又、病気にかからなくする方法が西式健康法です。費用もかからず効果絶大です。是非学びましょう。

